

働くことは、生きること

～「聞き書き」実習～



NPO法人共存の森ネットワーク

事務局長 吉野奈保子



聞き書き甲子園—平成14年より開催。これまでに1800人以上の高校生が参加

我々の仕事は、
木と話をせんことには、
始まりません。



未だに一年生よ。
今、六十八じゃけど、
一生修行じゃとおもうてる。



自然に感謝せんといかん。



山には山の神様がいるって、
婆ちゃんたちは信じとるからね。

高校生は何を感じたか

- 74歳になるおじいちゃんが、こんなにもパワフルで、エネルギーで、生き生きしているとは知らなかった。一つのことには打ち込む姿は、見ていて惚れ惚れした。
- 名人の話から、森の悲鳴が肌を伝わるように感じられました。いつの間にか、「名人の言いたいこと」が「自分の言いたいこと」になりました。
- 自分の目で、耳で聞き、心で感じることを大切にしたい。そうすることで、身の周りのあらゆるものが自分にとって「生きもん」に見えてくると思う。
- ひとりの人生が、こんなにも物語に溢れていることを知った。人生は決して一言では言い表せない。



名人は何を感じたか

自分の人生なんて、語るほどのものではないと思っていた。

でも、高校生に問われるうちに、
自分の人生も捨てたものではないと思えるようになった。

自分の息子にも、孫にも、話したことのないことも、
あの高校生には話したよ。



お爺さん・お婆さん
80代以上

戦中・戦前生まれ

数万年続いた世界

お父さん・お母さん
50代～60代

高度経済成長期
～バブル期

歴史的な大転換

学生・若者
10代から30代

バブル以降

たった60年の実績

農村中心(生きる=働く)

自給自足

薪や炭

体を使って働く

歩く・馬や牛

伝統的な知恵や技

自然の厳しさ、豊かさ



都会中心(お金の社会)

冷凍食品・レトルト

石油・ガス・原子力

電化製品・パソコン

自動車・新幹線

情報化社会

地球温暖化・気候変動

働くこと・生きることの価値観の変化

高度経済成長期 以前

生きる = 働く(身体を動かす)

働く = 食べ物をつくる(農)

採集・狩猟

家をつくり保全する

繊維を紡ぐ、織る

火をおこす・・・

世の中の役に立つ

(世の中=人、自然、家族、祖先、子孫)

高度経済成長 以降

生きる = 自己の実現(思考の世界)

身体の保全(栄養素の摂取)

働く = お金を得るため

「聞き書き」は「対話」



高校生の質問あるある！

いちばん、つらいことは何ですか？

いちばん嬉しかったことは何ですか？

仕事で生きがいを感じるときは？

具体的な生業（仕事・暮らし）を聞く

いつ？

なぜ？

どこで？

どのように？

誰が？

何を？

その作業を「映像」として
思い浮かべることができるように
質問を重ねていく

ディテールを大切に。

わかったつもりになるな。

大人がやる「聞き書き」は

実は難しい。

大人の皆さんだから気を付けてほしいこと

- 相手に「敬意」をもって聞く
- 相槌を打つ（共感を示す）ことは大切だが、
「自分の話」をするのは「厳禁」
- 「それは知っています」という言い方は絶対しない
- 話し手のテンポや「間（ま）」を大切にする

チームで「聞き書き」をするときは

「メモ係」がいるといい。

「確認すべきこと」や「聞き足りないこと」を

最後に聞く。



■ 實原周治さん 84歳（昭和13年生まれ）：一の茅集落

- ・農業に従事。一時期、中和村森林作業班の一員として林業も行う。
- ・中和で、はじめてワサビ栽培を研究し、実践。
- ・現在は、野菜苗もたくさん作っている。
- ・一の茅集落の古老の一人。祭礼・行事についても詳しい。

■ 實原よし子さん 90歳（昭和7年生まれ）：一の茅集落

- ・旧八束村（中和の隣村）に生まれる
- ・18歳で、一の茅集落にお嫁に来た
- ・米や「タバコ」を栽培していた。牛や鶏を飼っていた。
- ・昔は味噌やコンニャクを手作りしていた。

■ 池田真治さん 92歳（昭和4年生まれ）：真加子集落

- ・農業に従事。
- ・昔は米のほか「タバコ」も栽培していた。
- ・お兄さんがフィリピンで戦死している。
- ・真加子は、各家が順番に、毎日、神社に参る風習がある。